

歯科口腔外科 辻 司 科長 歯医者さん通信『ベトナム・ハノイ大から医療援助の感謝状 アジアの国々へのボランティア活動』の記事

歯医者さん通信

援助といった形で支援を続けています。私自身は一九九二年に当院に赴任したのですが、協会と大学（現在は富山大学医学部口腔外科講座が窓口）の協力を通じてボランティア活動を継続してきました。今回ハノイ大学から受けた表彰は、こうした流れの中で実績につながったものです」（辻科長）。協会の支援活動はベトナムをはじめ、モンゴルやチュニジア、パングラデシュ、ミャンマーなどアジアの数か国に及ぶ。辻科長は二

と違って子どもと違っても唇口蓋裂の治療が必要なお子さんは後を絶ちません。インドネシアは決して医療レベルが低いわけではなく、援助が必要なのは圧倒的に医療者の数が少ないからなので



〇〇八年からはインドネシアでの医療活動に参加し、現地では無料手術を行っている。訪問先はインドネシア中部にあるスラウエシ島で、今年も七回目となる活動を終えている。「インドネシアの人口は約二億四千万人、スラウエシ島だけでも百六十万人以上の人々が暮らしています。少子高齢化の日本

す。スラウエシ島でも唇口蓋裂の手術が行える歯科医師は二人だけ。私たちは無料の手術と歯科医師への指導という一本立てという形で活動を行っています」。唇口蓋裂は善美面での治療も大切だが、会話を摂食時の機能回復が最も重要となる。一年に一度しかも滞在時間も限られる中では、一人の歯医者さんにかける時間は決して十分とはいえない。関わるほどに絶えない課題を抱えるのが現状だが、「それでもまったく治療の手が差し伸べられることのなかった病气。子どもたちに微笑みを取り戻してあげるためにも継続していきたい」と話す。



唇口蓋裂の手術のもよう

歯医者さん通信

File No. 052

ベトナム・ハノイ大から医療援助の感謝状
アジアの国々へのボランティア活動

函館中央病院・歯科口腔外科（函館市）は、日越国交樹立四十周年記念事業の一環として行われた医学歯学交流ワークショップで、ベトナムのハノイ医科大学で、長から医療援助活動に関する感謝状を授与された。同事業はベトナムのグエン・タン・ズン首相が来日した際に、当時の野田佳彦首相と平和と繁栄のための共同声明を発表し、その友好記念事業の一つとして実施されたもの。こうした海外への支援活動は、辻科長が札幌医科大学医学部口腔外科講座に在籍した際に、NPO法人日本唇口蓋裂協会によるボランティア活動に参画したことに端を発するとい



治療を待つ子どもたち

どもたちの支援団体として、国内国外で活動を継続しています。とくに唇口蓋裂は先天異常の中でも頻度が高く、アジアだけでも一万人にのぼるといわれています。開発途上国では残念ながら経済的理由から治療を受けられない子どもも多く、協会では貴金属のリサイクル運動や無料手術、医薬品の

解説 辻 司 科長

函館中央病院歯科口腔外科
函館市本町33番2号
☎ 0138 (52) 1231
<http://www.chubyou.com/>

ハノイ大学からの感謝状を手にする辻科長

